

芦北町の教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価結果報告書
(令和6年度実績)

芦北町教育委員会

目 次

○芦北町の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検評価取りまとめ表	1
------------------------------------	---

○点検及び評価結果報告書

【教育課】

1 教育委員会運営事業	3
2 教育研究指定校等支援事業	4
3 学力等検査事業	5
4 英語検定受検支援事業	6
5 小中学校情報通信教育推進事業	7
6 漢字検定受検支援事業	8
7 指導主事配置事業	9
8 語学指導事業	10
9 論語教育推進事業	11
10 教職員等健康診断事業	12
11 各種大会等参加費助成事業	13
12 学校給食センター管理運営事業	14
13 給食費無償化及び給付金交付事業	15
14 子ども自立支援室事業及び特別支援教育事業	16
15 準要保護児童生徒就学援助事業	17
16 スクールバス運行事業	18
17 通学費補助事業	19
18 小中学校維持管理事業	20
19 奨学資金貸付事業	21
20 教育連携連絡協議会事業	22
21 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）事業	23

【スポーツ・文化振興課】

22 社会教育委員運営事業	24
23 生き生き大学運営事業	25
24 青少年育成町民会議支援事業	26
25 演奏家派遣事業	27
26 町民講座運営事業	28
27 成人式開催事業	29
28 家庭教育支援事業	30

29	コミュニティセンター管理運営事業	31
30	子どもの広場管理運営事業	32
31	図書館管理運営事業	33
32	放課後子ども教室推進事業	34
33	地域学校協働本部事業	35
34	人権教育推進事業	36
35	中央公民館運営事業	37
36	地区公民館施設整備支援事業	38
37	演能会開催事業	39
38	佐敷城跡調査事業	40
39	文化財保護審議会運営事業	41
40	文化財調査事業	42
41	文化財維持管理事業	43
42	佐敷東の城跡調査事業	44
43	文化振興事業	45
44	文化祭開催事業	46
45	星野富弘美術館運営事業	47
46	スポーツ振興支援事業	48
47	温泉プール管理運営事業	49
48	総合型地域スポーツクラブ活動支援事業	50
49	体育イベント開催事業	51
50	芦北町スポーツ協会支援事業	52
51	スポーツ推進委員協議会運営事業	53
52	体育施設管理運営事業	54
53	地域資源活用総合交流促進施設管理運営事業	55

芦北町の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検評価取りまとめ表

【教 育 課】

【（ ）内は前年の評価】

理念： 「温故創新」古きを学び知り、生きる力を培い、新しさを創る

学校教育目標： 徳育を根底に知育・体育を総和した基礎・基本の修得による学力の向上に努め、我が国と郷土及び国際社会に貢献できる人間の育成を図る。

具現化方針	評 価	教育委員会事務局評価						教育委員会 評価
		事業の ニーズ	町関与の 範囲	達成度	効率性	公平性	総合評価	
	教育委員会運営事業	A	A	B	A	A	A	A
1	「知」・・・学力の充実と向上							
	教育研究指定校等支援事業	A	A	B	B	A	A	A
	学力等検査事業	A	A	B	A	A	A	A
	英語検定受検支援事業	A	B	A	B	A	A	A
	小中学校情報通信教育推進事業	A	A	B	B	A	A	A
	漢字検定受検支援事業	A	B	B	B	A	B	B
	指導主事配置事業	A	A	A	B	A	A	A
2	「徳」・・・豊かな心を育む教育の推進							
	語学指導事業	A	A	B	B	A	A	A
	論語教育推進事業	B	A	B	B	A	B	B
3	「体」・・・健康・体力づくりの推進							
	教職員等健康診断事業	A	A	B	B	A	A	A
	各種大会等参加費助成事業	A	A	B	B	A	A	A
	学校給食センター管理運営事業	A	A	B	A	A	A	A
	給食費無償化及び給付金交付事業	A	A	B	A	A	A	A
4	不登校対策及び特別支援教育の推進							
	子ども自立支援室事業及び特別支援教育事業	A	A	B	B	A	A	A
5	安全・安心な教育環境の整備推進							
	準要保護児童生徒就学援助事業	A	A	B	A	B	A	A
	スクールバス運行事業	A	A	A	B	B	A	A
	通学費補助事業	A	A	A	B	B	A	A
	小中学校維持管理事業	B	A	B	A	A	A	A
	奨学資金貸付事業	A	B	A	A	A	A	A
6	社会に開かれた教育課程の実現							
	教育連携連絡協議会事業	A	B	A	B	A	A	A
	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）事業	A	B	B	A	A	A	A

【スポーツ・文化振興課】

社会教育目標：学校・家庭・地域社会を調和した生涯学習の充実を図る中で、伝統の上に創造を、秩序の中に進歩を希求する姿勢を醸成する。

具現化方針	評 価	教育委員会事務局評価						教育委員会 評価
		事業の ニーズ	町関与の 範囲	達成度	効率性	公平性	総合評価	
1 生涯学習の推進								
社会教育委員運営事業		A	A	B	B	A	A	A
生き生き大学運営事業		B	B	B	B	B	B	B
青少年育成町民会議支援事業		B	A	B	B	B	B	B
演奏家派遣事業		A	A	A	B	B	A	A
町民講座運営事業		A	A	B	B	B	B	B
成人式開催事業		A	A	A	A	A	A	A
家庭教育支援事業		A	B	B	A	A	A	A
コミュニティセンター管理運営事業		A	A	B	B	B	B	B
子どもの広場管理運営事業		A	A	B	B	B	B	B
2 読書活動の推進								
図書館管理運営事業		A	A	A	B	B	A	A
3 学校・家庭・地域の連携推進								
放課後子ども教室推進事業		A	A	B	B	B	B	B
地域学校協働本部事業		A	B	B	A	A	A	A
4 人権教育の推進								
人権教育推進事業		A	A	B	B	A	A	A
5 公民館活動（地域活動）の充実								
中央公民館運営事業		A	B	B	B	B	B	B
地区公民館施設整備支援事業		B	A	B	B	B	B	B
6 歴史・伝統文化の尊重								
演能会開催事業		A	A	B	B	B	B	B
佐敷城跡調査事業		A	A	B	A	A	A	A
文化財保護審議会運営事業		B	A	B	A	A	A	A
文化財調査事業		A	A	A	B	A	A	A
文化財維持管理事業		A	A	A	B	A	A	A
佐敷東の城跡調査事業		B	A	B	B	B	B	B
7 文化芸術活動の推進								
文化振興事業		A	A	B	A	B	A	A
文化祭開催事業		A	A	B	B	B	B	B
8 星野富弘美術館の充実								
星野富弘美術館運営事業		B	A	A	B	B	B	B
9 生涯スポーツの推進								
スポーツ振興支援事業		A	A	A	B	B	A	A
温泉プール管理運営事業		A	A	B	B	B	B	B
総合型地域スポーツクラブ活動支援事業		B	B	B	B	B	B	B
体育イベント開催事業		A	A	B	B	B	B	B
芦北町スポーツ協会支援事業		A	B	B	A(B)	A(B)	A(B)	A(B)
スポーツ推進委員協議会運営事業		A	B	B	B	A(B)	B	B
体育施設管理運営事業		A(B)	A	A(B)	B	B	A(B)	A(B)
地域資源活用総合交流促進施設管理運営事業		A(B)	A	A(B)	B	B	A(B)	A(B)

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針			
事 務 事 業 名	教育委員会運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	教育委員、教育職員及び関係者	
	目 指 す べ き 姿	芦北町教育立町の理念の下に設けた「学校教育目標」の実現による「教育立町あしきた」を確立する。	
	具体的な事業内容	・教育委員会議の開催（定例会１２回、臨時１回） ・教育委員会権限下の規則等の制定、改廃 ・教育関係職員等の人事事務処理 ・学校運営の支援及び指導 ・教育委員会権限下の事務事業点検・評価	
最 終 予 算 額	９ ４ １ 千 円	決 算 額	８ ８ ８ , 〇 ７ ９ 円
事 業 の 成 果 と 課 題	教育委員会議を年間１５回開催し、議案１１件、報告３３件を審議し、承認しました。 教育委員会権限下における主要事務事業の点検及び評価作業や、令和７年度から令和１０年度使用中学校教科用図書の採択などを審議するとともに、学校訪問や学校研究発表などを通して適宜、指導・助言を行いました。 教育を取り巻く環境が複雑・多様化する中で、教育委員会の権限の強化とともに、より主体的な取組が求められています。今後も委員会活動の益々の活性化を図ってまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 事 業 の 効 率 性 を 高 め ら れ る か	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や 受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
	学識経験者意見	令和７年度から使用の中学校教科用図書の採択に向けて、十分な審議と検討が行われた。また、学校訪問や研究指定校に対して適切な指導助言が行われている。今後も各学校の課題解決に向けて教育委員会の主体的な指導をお願いしたい。	
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具現化方針	「知」・・・学力の充実と向上		
事務事業名	教育研究指定校等支援事業		
事業の概要	対象	児童・生徒及び教職員	
	目指すべき姿	教職員の意識改革による指導力の強化と併せて児童生徒の確かな学力と心豊かな人間性を持った知徳体の調和のとれた児童生徒を育成する。	
	具体的な事業内容	研究指定校に対し、英語教育の推進を行うための活動に助成をおこなう。 ・英語教育研究指定校 １年目 大野小学校 ２年目 田浦小学校	
最終予算額	250千円	決算額	250,000円
事業の成果と課題	英語教育研究指定校２年目の田浦小学校では、「自己を見つめ、自ら学びに向かう児童の育成」を研究主題とし、児童の実態に合った学習ゴールを設定し、意欲的に取り組むことができる活動を設定することで、主体的にコミュニケーションを図ることができるようになることを目標に事業に取り組みました。具体的には授業研究や研修を通じて、学習課題の設定の考え方や、「楽しさ」を重視した授業づくり、書くことに抵抗感のある児童への手立てなどを学び、英語の授業へ反映することができました。その結果、児童の主体的なコミュニケーション活動につながりました。		
教育委員会事務局の評価	事業のニーズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町関与の範囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達成度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効率性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公平性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総合評価	A	
	学識経験者意見	児童のコミュニケーション能力を高めることを第一に、授業が楽しいと思える主体的な授業研究が進められている。 特に、児童の実態に即した授業づくりの中で、「学習ゴール」目標を設定し、１時間の授業の中での「手立て」が、適切に行われ意欲的な学び方につながっている。今後も他校への広がりを目指したい。	
教育委員会評価	A		
担当課	教育課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「知」・・・学力の充実と向上		
事 務 事 業 名	学力等検査事業		
事 業 の 概 要	対 象	児童・生徒	
	目 指 す べ き 姿	児童・生徒一人一人の基礎学力の現状を把握し、個々の学習指導に結果を活用することによって、児童生徒の学力のレベルアップを図る。	
	具体的な事業内容	○小学校 ・学力検査・知能検査・スポーツテスト・Q U検査 ○中学校 ・学力検査・知能検査・スポーツテスト・Q U検査 ・標準学力検査（社会・理科）	
最 終 予 算 額	2, 8 5 6 千円	決 算 額	2, 7 7 3, 9 9 8 円
事 業 の 成 果 と 課 題	児童生徒の基礎学力の実態把握と改善策の検討資料として活用しました。また、町独自で県学力・学習状況調査の実施に合わせて中学１・２年生に対しても標準学力検査（社会・理科）を行い、結果を活用して指導方法の改善、学年・クラス・個人に合わせた学力の向上に取り組みました。 スポーツテストでは、児童生徒の体力的な実態を把握することで「体」の発達を助長するための参考資料としています。 今後は、各検査・テストの結果を最大限活かすため、各教科に応じた工夫を行い、本事業が一過性のものにならないよう、継続的に指導体制の改善を図っていく必要があります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
	学識経験者意見	町独自で、中学１，２年生を対象とした標準学力検査を実施するなど、基礎学力の定着、向上を目指した適切な対応が図られている。また、スポーツテストにおいても、「体」の発達状況を調べ、体育学習や生活の中での運動力の向上など役立っている。 今後も、授業改善に生かしてほしい。	
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「知」・・・学力の充実と向上		
事 務 事 業 名	英語検定受検支援事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の中学校に在籍する生徒	
	目 指 す べ き 姿	経済的な負担軽減により受検の機会均等を図り、生徒の英語に対する学習意欲の向上、学力向上を目指す。	
	具体的な事業内容	受検者数・受検級を把握したうえで、各学校からの申請に対し、受検料を補助する。（年度内に受検する１回（１級分）の検定料）	
最 終 予 算 額	1, 4 6 1 千円	決 算 額	1, 2 3 9, 2 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	平成１９年度に開始した事業で、経済的な負担軽減・受検機会の提供により、英語検定の受検に向けた取組を行い、学習意欲の向上・学力の向上に努めました。 令和６年度に英語検定を受検した受検者（自費受検を含む）は、３６４人でした。中学３年生の３級以上の保有者率は４４．９％でした。年々自費で受検する生徒が増え、生徒の英語学習意欲の高まりや英検受検への意識の高まりが見られます。 今後も語学指導事業と併せて、英語力強化に向けた取組を推進してまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない ☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる ☒ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	多くの生徒が英検に挑戦し、年々３級以上の合格保有率もわずかながら高まりが見られる。今後も生徒の自主性を尊重しながら３年生の生徒数に対して５割弱から７割程度の合格率をめざしてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「知」・・・学力の充実と向上		
事 務 事 業 名	小中学校情報通信教育推進事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の小・中学校	
	目 指 す べ き 姿	I C T機器を効果的に活用し、町内全体の小・中学校における教育の質、児童生徒の学力及び学習意欲の向上を図るとともに、教育現場における教職員の負担を軽減する。文部科学省が提唱するI C T環境整備方針「G I G Aスクール構想」に沿った環境整備を行い、時代のニーズに合った教育を行う。	
	具体的な事業内容	I C T機器の整備（校務用P C、教育用P C、その他I C T機器など）を行う。校務用及び教育用ソフト等の導入によりI C T機器を効果的に活用する。I C T機器等について、保守・サポート業務を委託することにより、機器の障害や操作サポート、授業づくりに対応する。	
最 終 予 算 額	2 7 , 9 9 4 千円	決 算 額	2 7 , 3 4 7 , 9 2 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度においては、児童生徒の1人1台のタブレット端末や教職員分のタブレット端末、授業支援用ソフト（ロイロノートスクール）、その他I C T機器のソフトウェア更新や操作サポートを継続し、効果的な活用を推進しています。また、校務支援システム（ゆう net）の運用により、教職員の校務効率化の改善が図られています。更に、学校毎にW e b 会議用のアカウントを付与していることで、教職員が遠隔での会議や打合せが可能になり、事情に合わせた柔軟な働き方の可能性を広げることができました。 今後は、各種機器が耐用年数を迎えるため、計画的な更新を行っていく必要があります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	授業支援や校務の効率化に向けて、タブレット端末や授業支援ソフトなど効果的な活用が図られている。 また、教職員の遠隔会議などにも活用されて、教師の働き方改革にも生かされている。今後も機材の更新等計画的に進めてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「知」・・・学力の充実と向上			
事 務 事 業 名	漢字検定受検支援事業			
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の中学校に在籍する生徒		
	目 指 す べ き 姿	経済的な負担軽減により受検の機会均等を図り、生徒の漢字及び国語に対する学習意欲の向上、学力向上を目指す。		
	具体的な事業内容	受検者数・受検級を把握したうえで、各学校からの申請に対し、受検料を補助する。（年度内に受検する１回（１級分）の検定料）		
最 終 予 算 額	８ ８ ３ 千 円	決 算 額	８ ３ ９ , ５ ０ ０ 円	
事 業 の 成 果 と 課 題	平成２５年度から開始した事業で、経済的な負担軽減・受検機会の提供により、漢字検定の受検に向けた取組を行い、学習意欲の向上・学力の向上に努めました。 令和６年度に漢字検定を受検した受検者（自費受検を含む）は、３３８名でした。中学３年生の３級以上の保有者率は３３．６４％でした。 今後も、各学校の実態に合わせ目標値を設定するとともに、個人の学力に応じた目標達成に向けて取組を充実させる必要があります。			
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない	☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる	☒ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った	☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり	☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり	☐ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B		
学識経験者意見	中学３年の３級以上の合格保有者が３４％程度で、まだまだ低迷していると考える。各学校の生徒の実態を、さらに把握、分析し合格者５０％に近づけてほしい。			
教育委員会評価	B			
担 当 課	教 育 課			

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「知」・・・学力の充実と向上		
事 務 事 業 名	指導主事配置事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町立小中学校の教員及び児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	芦北町総合計画（第二次）の基本理念「すべては、次代を担う子どもたちのために」及び芦北町教育大綱の基本理念「温故創新」（古きを学び知り 生きる力を培い 新しさを創る）の実現。	
	具体的な事業内容	若手教師の育成、小中学校間の連携の推進、芦北町の特徴を生かした教育の達成に向け、教育委員会と学校間の関係を強化する。	
最 終 予 算 額	一千円	決 算 額	一円
事 業 の 成 果 と 課 題	指導主事を中心に進めている各中学校区の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）では、地域の参画が図られ、それぞれの目標を共有し共通実践を図ることができました。また、「小中連携における目指す子ども像の系統表」を基に、五者連携の取組を全小中学校で推進することが出来ました。今後も、学校運営協議会と地域学校協働活動事業との一体的推進を図りながら、地域とともにある学校づくりを発展させ、子どもたちの成長を支えてまいります。 学力面に関しては、初任者や若手教師を対象とした授業参観指導を積極的に行い、若手教師の授業力向上を図りました。また、芦北町学力向上部会を中心に町の学力向上のために取組の方向性を確認しました。結果、12月の熊本県学力・学習状況調査結果は、4月の全国学力・学習状況調査結果と比較すると、小学校、中学校ともに改善がみられました。今後は、学力向上部会を中心に、小中連携や小小連携をより推進し、基礎学力の定着や課題解決の取組実践を図ってまいります。		
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	指導主事を中心に、各中学校区の学校運営協議会で、小中連携をめざして地域と一体となった取組が実施されている。 また、初任者や若手教師の授業力向上と児童生徒の学力向上に向けて、授業の工夫改善へ向けて指導助言が行われるなど、意欲的な取組が見られる。今後もさらに、若手教師の悩みなどにも目を向けてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「徳」・・・豊かな心を育む教育の推進		
事 務 事 業 名	語学指導事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の小中学校に在籍する児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	外国語指導助手の活用により、外国語の学習意欲を高め、多様な異文化の認識、相互理解、コミュニケーション能力等を身につけ、豊かな心を育むことを目指す。	
	具体的な事業内容	外国語指導助手（3名）を招へいし、全ての小中学校の外国語活動及び英語授業の助手として活用する。 児童生徒の授業の充実に取り組む中で、コミュニケーション能力を培い、自分自身のことを他者へ伝えることが出来る児童生徒の育成を図る。また、外国人指導助手との触れ合いにより、人や文化など他と関わろうとする心を育む。	
最 終 予 算 額	1 5 , 2 4 6 千円	決 算 額	1 5 , 2 4 6 , 0 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	外国語を話す力、聞く力の向上を目的に、語学指導の経験者など、経験や実績のある高い指導力を持った3名を招へいし、質の高い外国語指導を行うことが出来ました。 外国人指導助手を活用し、生の外国語に直接触れることで、授業内容の理解が深まり、児童生徒の外国語に対する意識が高まりました。 今後も、児童生徒の英語への興味・関心をより高めていけるよう取り組んでまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	外国人指導助手を活用し、生きた外国語と他国の文化に触れる意欲的な学習活動が進められている。今後も小学校から中学校へつなぐ相互の乗り入れ授業を展開し、「学びの連続性」をスムーズに、外国語学習が楽しいと思える児童生徒の割合を高めてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「徳」・・・豊かな心を育む教育の推進		
事 務 事 業 名	論語教育推進事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の小中学校に在籍する教職員及び児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	人としての生き方・在り方について書かれた「論語」について、素読など各校において特色ある取組を行うことで、徳育の推進を図る。	
	具体的な事業内容	芦北町教育委員会発行の「論語百選」に基づき、各学校において特色ある論語教育を実施する。 令和 6 年度実績 論語百選の配布 論語指導員講師による論語講演（田浦小・田浦中）	
最 終 予 算 額	2 0 千 円	決 算 額	2 0 , 0 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	本町では、町独自に論語の素読を中心とした「論語教育」に取り組んでいます。取組内容は、各学校独自のもので、朝の学びの時間での素読、放送委員による校内放送による全校一斉素読、校舎内の廊下や教室への掲示など様々であり、児童生徒の論語への興味関心を高めることで、徳育の推進を図っています。これらにより、論語に触れるきっかけが増え、古典や漢文への親しみが持てるようになるほか、論語の意味を知ること、人としての道や考え方に触れ、相手を尊重する心や、決まりを守ろうとする心といった道徳心が養われ、素直で規範意識の高い児童生徒の育成に大きく寄与しています。 課題として、学校活動での時数では制限があるため、取組を工夫しながら児童生徒の興味関心を高めていく必要があります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	町独自の論語教育も10年以上と定着し、各学校で工夫した取組が行われ、道徳心の醸成につながっている。 今後は、町や学校の文化祭などでも、町民に「学び」の成果を披露する機会を設けてほしい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「体」・・・健康・体力づくりの推進		
事 務 事 業 名	教職員等健康診断事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の小中学校に在籍する児童生徒及び所属の教職員	
	目 指 す べ き 姿	児童生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送るために自らの成長と健康を把握するとともに、教職員が安心して教育活動に取り組むため、自らの健康について把握することを目指す。	
	具体的な事業内容	医師会等へ業務を委託し、日程調整等を行い、健康診断を実施し、結果を通知する。必要があれば、委託先の専門家から適切な指導・助言を行ってもらう。	
最 終 予 算 額	2, 2 0 4 千円	決 算 額	1, 7 9 0, 7 4 5 円
事 業 の 成 果 と 課 題	児童生徒については、自分の成長と健康について把握することができ、病気の早期治療や予防に役立っています。 教職員についても、健康診断により、自身の健康状態を把握することにつながっています。早期発見を行うことで、治療・療養又は定期的な通院等を行うことができます。近年は心の病気を患う教職員も少なくないため、メンタルヘルス調査と併せストレス調査を実施することで、自身のストレスに気づきセルフケアなどを通じて不調となることを未然に防止する役目を果たしています。 本事業により、児童生徒及び教職員が健康で安心した学校生活を送ることが保たれています。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	児童生徒が自らの健康状態を把握し、病気の早期発見や治療などに生かされている。また、教職員は健康診断を受けて病気の早期発見、メンタルヘルス調査などストレス度合いを自ら把握し、安心して勤務できる体制が図られている。 今後も継続してほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「体」・・・健康・体力づくりの推進		
事 務 事 業 名	各種大会等参加費助成事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の小中学校に在籍する各種大会に参加する児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	各種大会への参加について、参加者輸送費の助成をすることにより、多くの児童・生徒の大会参加・競技力向上を促進する。	
	具体的な事業内容	各種大会へ参加するための民間バス借上げ料について、学校の申請により必要な経費を助成する。	
最 終 予 算 額	1, 0 0 0 千円	決 算 額	8 4 3, 1 1 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	スポーツ部門・文化部門において参加可能な全ての大会に参加できており、機会均等が図られています。令和6年度の延べ参加者数は252名でした。 令和6年度は各大会が予定どおりに行われ、参加資格を満たす全ての大会に出場することができました。今後も生徒たちの運動機会・大会参加機会を十分に確保し、健全で健康的な身体づくりにつなげてまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	スポーツ部門、文化部門で252名が意欲的に参加し、全ての大会が実施されている。今後も各種大会への適切な助成をお願いしたい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「体」・・・健康・体力づくりの推進		
事 務 事 業 名	学校給食センター管理運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	児童・生徒、教職員	
	目 指 す べ き 姿	・ 食事について正しい理解と望ましい食習慣を養う。 ・ 学校生活を豊かにし、明るい社会性を養う。 ・ 食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図る。 ・ 食料の生産、配分及び消費について正しい理解を解く。	
	具体的な事業内容	・ 小中学校児童・生徒及び教職員等への給食の提供。 （児童生徒は学校給食費無償） ・ 各学校への栄養士による食育指導。	
最 終 予 算 額	1 4 0 , 9 6 9 千 円	決 算 額	1 3 9 , 9 6 9 , 4 5 5 円
事 業 の 成 果 と 課 題	学校給食においては、食中毒の予防など衛生管理を徹底し、安全・安心な栄養バランスのとれた給食や地元の食材を使った地産地消の給食を提供しました。また、食物アレルギーを持つ児童生徒にはアレルギーに対応した給食の提供を行いました。 栄養士の町内小中学校等での食育指導では、食事についての正しい知識等を児童生徒に浸透させることができました。 今後も引き続き安全・安心な給食の提供を行うとともに、食中毒の発生がないように衛生管理を徹底してまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	■満たしている

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	「体」・・・健康・体力づくりの推進		
事 務 事 業 名	給食費無償化及び給付金交付事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内小中学校に在籍する児童・生徒、町外小中学校に通学する児童・生徒の保護者（給付金は本町に住所を持つ者に限る。）	
	目 指 す べ き 姿	・保護者の経済的負担を軽減することにより子どもの成長を社会全体で支え、子育て支援を推進する。 ・子どもたちの安心で充実した食の環境の安定に資する。 ・未来に向けた芦北町への移住定住の促進を図る。	
	具体的な事業内容	・小中学校児童・生徒に対する学校給食の無償提供 ・町外小中学校に通学する児童・生徒の保護者に対する町給食費を限度とした給付金の交付 （無償化） 963 人：52,503,460 円 （給付金） 14 人： 732,631 円	
最 終 予 算 額	5 3 , 5 9 6 千円	決 算 額	5 3 , 2 3 6 , 0 9 1 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和5年度から子育て支援の推進を目標とし、町内の小中学校児童生徒の「給食費完全無償化」を開始しました。子どもたちを養育する保護者の経済的負担を軽減することにより、子どもの成長を社会全体で支えるという理念のもと、多くの子育て世帯を対象とした支援となりました。 また、町内小中学校児童生徒の給食費無償化に留まらず、町外の小中学校に通学する児童生徒の保護者に対しても給食費相当額となる給付金を交付いたしました。これは、町外の小中学校であっても町内に住所を持つ保護者が申請を行うことにより当該給付金を受給できるもので、子育て環境の整備充実を町内外へアピールするとともに、町外から芦北町への移住定住の動機付けとなることを期待するものです。 今後も子育て支援の拡充を図り、子育てしやすいまちづくりを行い、芦北町の魅力を情報発信しながら、子どもたちの成長を支えるために事業を展開してまいります。		
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	給食費の「完全無償化」対策は、保護者にとって経済的な負担軽減からも重要で望ましい施策である。 今後も子育て世帯の環境整備、移住定住促進のために情報発信を続けてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	不登校対策及び特別支援教育の推進		
事 務 事 業 名	子ども自立支援室事業（自立支援室指導員、不登校対策支援員配置）及び特別支援教育事業（教育支援委員会、特別支援教育支援員配置、特別支援教育奨励費援助事業）		
事 業 の 概 要	対 象	教育的支援が必要な児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	不登校及び不登校傾向等の児童生徒に対し、学習支援及び指導等を行うことにより、適応力及び自立心を養い、学校や社会に適応できる人づくりを推進する。また、一人一人の教育的ニーズを把握し、持てる力を最大限に伸ばすため指導及び必要な援助を行う。	
	具体的な事業内容	・子ども自立支援室（週４回開催）における学習指導等 ・教育支援委員会による専門的知識を有する者の意見聴取 ・不登校対策支援員・特別支援教育支援員の配置 ・特別支援教育関係機関との連携を通じた支援体制の推進 ・学びの場適正選択及び学びの場整備事業に係る第Ⅱ期先行モデル地域としての通級指導教室設置に向けた取組 ・特別支援教育就学奨励費による経済的援助	
最 終 予 算 額	73,689千円	決 算 額	68,930,662円
事 業 の 成 果 と 課 題	不登校や不登校傾向にある児童生徒一人一人の課題が異なるため、学校及び不登校対策支援員との細やかな情報交換が必要です。自立支援室に３名の指導員を配置し、学習の困難さや意欲低下、適応指導について丁寧に対応を行っています。また、特別支援教育支援員を学校に１７名配置し、支援の充実と学習効果の向上や学校生活面での安定を図り、研修による専門的知識の向上に努めました。教育支援委員会では、必要な支援や適切な就学先について専門家の意見を聴取しました。令和６年度において県先行モデル地域の決定を受け、学びの場の適正選択及び学びの場整備事業として、通級指導教室の設置に向けた調査や検討を行い、令和７年度より佐敷小学校を拠点校とする巡回型の通級指導教室の設置が決定されました。児童生徒一人一人の持てる力を最大限に伸ばすため、多様な学びの場の充実を図ります。また、特別支援学級に在籍する児童生徒には、奨励費補助金による経済的支援を行っています。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	自立支援室指導員、不登校対策支援員、特別支援教育支援員が、適材適所に配置され、児童一人ひとりの課題解決に向けた対策が講じられている。今後も指導員、支援員が力量を高めるために定期的に専門的研修の充実をお願いしたい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	安全・安心な教育環境の整備推進		
事 務 事 業 名	準要保護児童生徒就学援助事業		
事 業 の 概 要	対 象	経済的な理由により就学が困難な児童生徒（保護者）	
	目 指 す べ き 姿	対象者に必要な援助を行うことで、子どもが安心して教育を受けられ、教育の機会均等が図られる。	
	具体的な事業内容	就学援助費の支給 ・学用品費、通学用品費、給食費、修学旅行費、新入学学用品費、校外活動費、卒業アルバム代	
最 終 予 算 額	20, 119千円	決 算 額	14, 550, 926円
事 業 の 成 果 と 課 題	経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助を行うことで、児童生徒が平等に教育を受ける環境の整備が図られました。 令和6年度の認定者数は、小学校が93名、中学校が68名の合計161名でした。また、小中学校入学前に必要な学用品等の購入が出来るよう、新入学児童生徒学用品費等を小学新1年生8名に対し、456, 480円、中学新1年生18名に対し、1, 134, 000円の合計1, 590, 480円の援助を行いました。 修学旅行費や校外活動費については、家計では高額な出費となるため保護者の希望により事前払による支給ができるよう対応しています。今後も一人親世帯や不況・失業等、社会情勢の変化に伴い、事業の必要性は増すことが予想されることから、引き続き周知の徹底を図る必要性があります。		
教 育 委 員 会 事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	一人親世帯、不況、失業など社会情勢の変化に伴う経済的困窮状況にある保護者に就学援助費が支給されることは、教育の機会均等の面からも重要な事業である。 今後も家庭の状況を把握した対応をお願いしたい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	安心・安全な教育環境の整備推進		
事 務 事 業 名	スクールバス運行事業		
事 業 の 概 要	対 象	小学校 5 校及び中学校 3 校	
	目 指 す べ き 姿	自宅から学校への遠距離の徒歩通学は、時間的、体力的に児童生徒の負担となり、また、事故や事件等の危険性も高い。その対策として、スクールバスの活用により、児童生徒の通学の負担軽減と安全の確保を図る。	
	具体的な事業内容	・スクールカー10人乗り 4 台 ・スクールバス 29 人乗り 17 台 ・人材派遣会社へ運転業務を委託して実施	
最 終 予 算 額	4 7 , 8 4 8 千 円	決 算 額	4 6 , 2 4 3 , 2 2 1 円
事 業 の 成 果 と 課 題	学校の統廃合により、児童生徒の通学距離が長距離となる傾向の中、徒歩や自転車による遠距離通学は安全確保上厳しい状況にあります。そのような現状に対応するため、スクールバスを活用し、遠距離通学者の安全な登下校の確保を目指します。また、登下校以外の校外活動や部活動での利用を行うことで更なる利便性を図ることができ、教育の機会均等に努めました。 令和 5 年度に実施したアンケート等の調査結果を基に、令和 6 年度から運行範囲を拡大し、さらなる登下校の安全確保を図りました。 今後も、将来における安全かつ利便性の高いスクールバス事業を展開するため、委託業者と連携の強化を図ってまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	スクールバスが安全に走行するために、運行計画の改善、アンケートの実施など見直しが図られている。 今後もさらに、委託業者、バス運転士との意思の疎通が日常的に図られるようにお願いしたい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	安全・安心な教育環境の整備推進の確立		
事 務 事 業 名	通学費補助事業		
事 業 の 概 要	対 象	遠距離通学、公共交通機関利用の通学を行う児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	遠距離通学に係る経費、公共交通機関を利用した通学に係る経費を補助し、通学距離・手段による負担の格差を解消することで教育の機会均等を図る。	
	具体的な事業内容	民間バス利用通学、鉄道利用通学に要する費用を、対象者個人の申請により補助する。また、小学校4 k m以上・中学校6 k m以上の距離を通学するスクールバス非利用者に対し、学校の申請により補助する。	
最 終 予 算 額	0 千 円	決 算 額	0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	スクールバスの運行範囲の拡大を図ったため、調査した結果、令和6年度は対象者がいませんでした。 今後も対象者把握に留意し、教育の機会均等に努めてまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	スクールバスの運行拡大により、対象者はいなくなり良かったが、今後も毎年現状の把握に努めてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	安全・安心な教育環境の整備推進		
事 務 事 業 名	小中学校維持管理事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内全小中学校	
	目 指 す べ き 姿	学校施設の整備を図ることにより、安全で快適な教育環境を提供する。	
	具体的な事業内容	各小中学校修繕の外、田浦小手洗場改修工事、内野小屋外汚染排水管改修工事、内野小電話交換機システム導入工事、田浦中屋上防水改修工事及び湯浦中法面補修工事を実施した。	
最 終 予 算 額	6 5 , 8 7 4 千 円	決 算 額	6 4 , 9 1 0 , 4 2 2 円
事 業 の 成 果 と 課 題	学校施設の改修を行ったことで、安全で快適な教育環境が生み出され、児童生徒は充実した生活を営むことができました。 今後の課題としては、校舎等の施設や設備の多くが年数の経過による老朽化が進行しており、費用の面から緊急度・優先度を見極めて整備する必要があります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	各学校の修繕、及び改修工事など、対応が順次急ぐところから工事が進められている。 今後も、老朽化しているところから早急に対応を講じてほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	安全・安心な教育環境の整備推進		
事 務 事 業 名	奨学資金貸付事業		
事 業 の 概 要	対 象	高等学校、大学及びこれらと同程度の学校に修学する者	
	目 指 す べ き 姿	高校、大学等に進学を希望する学徒で、経済的な理由により修学が困難な者に対して奨学資金を貸与し、学習の機会を確保する。	
	具体的な事業内容	・ 高等学校（同程度の学校に修学する者含む。）1人当たり月額1万5,000円以内の貸付 ・ 大学（同程度の学校に修学する者含む。）1人当たり月額5万円以内の貸付 ・ 入学準備金50万円以内の貸付	
最 終 予 算 額	24,000千円	決 算 額	19,960,000円
事 業 の 成 果 と 課 題	事業の成果は、新規申請者9名（大学9名）に対して、全員を奨学生として採用し、教育の機会均等に資することができました。継続貸付者は23名で、合計32名を奨学生として採用しています。 現年度分の収納率は97.87%、過年度分の収納率は7.58%です。現年過年合わせた令和7年度への滞納繰越額は2,768,500円となりました。 今後も滞納額の縮減に向け、催告状の送付や訪問徴収、滞納者個別の納付計画の立案等を実施してまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	新規申請者9名全員に奨学金を貸与できたことは、保護者の経済的負担軽減からも大切な事業である。 しかし、今回も滞納額総額200万円以上と、回収できていない現実をみると、新規のときに、もっと丁寧に返済できる約束を、確認しておくべきである。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	社会に開かれた教育課程の実現		
事 務 事 業 名	教育連携連絡協議会事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内小中学生、保育園児（未就学児）	
	目 指 す べ き 姿	保育園等から小学校へ、小学校から中学校へ滑らかに移行できるように、様々な取組を行い、学校に対する不安や抵抗感をなくすとともに、各機関の連携を図った教育指導等を確立する。	
	具体的な事業内容	・教育連携連絡協議会開催 ・幼保小中連携部会・特別支援教育連携部会の開催 ・校区別担当者（コーディネーター）会議の開催 ・各関係機関との交流活動	
最 終 予 算 額	7 8 千 円	決 算 額	6 3 , 2 7 8 円
事 業 の 成 果 と 課 題	保小中間の就学の滑らかな移行を推進する幼保小中連携と特別支援教育に関する取組を更に推進し、様々な状況に対応することができる体制づくりと関係機関との連携を図るため、年間を通じた事業活動に取り組みました。担当者の専門的知識の向上のための研修や、幼保小中連携カリキュラムと目指す子ども像の系統表を確認し、協働で一体的な取組の重要性の共通理解を図りました。また、保小接続期2年間の育ちと学びの連続性の確保の観点から、新たに架け橋期カリキュラムを策定しました。担当者会議は、教育現場や家庭が抱えるさまざまな課題に対して共同で取り組み、効果的な解決策を見出す力の強化と子どもたちが「自分の良さを生かす」ことができる多様なニーズに応える教育力の強化につながっています。関係機関における、課題に取り組むための持続可能な体制づくりと情報共有への理解・協力が不可欠です。すべての子どもがその違いや特別なニーズに関わらず、同じ場で学び、成長することを目指す教育の理念及び実践を指す「インクルーシブ教育」のシステム構築のため、物理的な学習環境の整備や一人一人の能力を最大限に発揮できるような支援が必要です。		
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	「学びの連続の確保」という視点に立って、幼保小中、特別支援教育との連携が保たれて、情報の共有、多様性の理解など「インクルーシブ教育」の実現を目指した取組が進められている。今後もさらに、カリキュラムの継続と見直しを図ってほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	社会に開かれた教育課程の実現		
事 務 事 業 名	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町内の小・中学校	
	目 指 す べ き 姿	学校が、保護者や地域住民等と育てたい子ども像や目指すべき教育の目標を共有し、保護者や地域住民等の学校運営への参画や支援・協力を促進することにより、信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成を図る。	
	具体的な事業内容	中学校区毎に、学校運営協議会を設置し、地域の子どもを中心にしながら、子どもたちの成長や学びについて協議を行う。 また、地域と学校で協働し、特色ある活動を実施することで、社会に開かれた教育課程の実現に取り組む。	
最 終 予 算 額	1, 2 7 3 千円	決 算 額	8 0 4, 9 7 6 円
事 業 の 成 果 と 課 題	中学校単位の学校運営協議会（コミュニティスクール）では、五者（学校・子ども・家庭・地域・行政）が連携し、地域住民の参加を促し、地域の特色を生かした教育を行うため校区における目標を共有し、共通実践を図るために協議会で活発な協議を行っています。 校区での課題に対して、委員がそれぞれの立場や経験をもとに意見を出したり、地域学校協働活動とつなげたりしながら解決に向けて進めています。 令和6年度は、各校区で5回の協議会を実施したほか、校区毎に特色ある活動を実施することができました。 今後も、学校運営への支援や課題解決のための手立てを協議し、それぞれの中学校区で地域独自の新たな取組等につなげ学校を支援してまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	各校区ごとに5回の協議会を開催し、地域の特色を生かした活動が展開されている。 今後も「地域の子どもは地域で育てる」という視点に立って、町以外の取組なども参考にしながら魅力的な活動をさらに期待したい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	教 育 課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	社会教育委員運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	社会教育委員	
	目 指 す べ き 姿	社会教育法第15条に規定される社会教育委員は、教育委員会の諮問に応じ助言や意見を述べるなど、更なる家庭教育や地域教育力の向上を目指す。	
	具体的な事業内容	教育委員会事務局が提示した、社会教育各種計画案の審議、または、社会教育法第17条第3項に規定される教育委員会から委嘱された青少年教育の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者に対し、助言や指導を行う。	
最 終 予 算 額	1, 0 7 3 千 円	決 算 額	8 0 3, 7 8 2 円
事 業 の 成 果 と 課 題	年2回（5月・3月）の社会教育委員会を開催し、社会教育に関する事業について提言・意見をいただきました。 また、9月に西原村で開催された熊本県社会教育研究大会や、11月に開催された九州ブロック社会教育研究大会（鹿児島市）に参加し、各委員の教養を高めるとともに、理解を深めることができました。 今後も研修等に積極的に参加し、職員、委員の資質向上を図ってまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
	学識経験者意見	年2回の社会教育委員会や熊本県社会教育研究大会（西原村）九州ブロック社会教育研究大会（鹿児島市）など、社会教育委員や担当職員の研修の充実が図られている。 今後さらなる「生涯学習社会」の持続を目指して、社会教育委員の提言なども広報で知らせてほしい。	
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	生き生き大学運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内在住の高齢者（60 歳以上）	
	目 指 す べ き 姿	急激に変貌する現代社会にあって、高齢者が社会に適応し、豊かで生きがいのある生活を創造するための一助となることを目的とする。	
	具体的な事業内容	全地区を対象に受講生を募集し、2 地区（佐敷・湯浦）において毎月 1 回（年間 9 回）のクラブ活動（ヨガ、健康料理教室等）を実施している。	
最 終 予 算 額	8 5 4 千円	決 算 額	5 3 3 , 9 8 1 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和 6 年度は 1 2 講座中 8 講座を開講し、中でも新規で開講したスマホ教室においては定員を超過する申込があり、人気を博しました。その他の講座についても前年以上の受講生が集まり、最終の受講生数は令和 5 年度の 6 8 名を大きく上回る 1 1 8 名となりました。 課題としては、定員を超過するクラブがある一方で不開講となる講座が見受けられたため、町民のニーズに沿った新規講座の開設や、人気の高い講座の他地区での開講など事業内容を検討し、学習意欲の向上と受講生の増加を図ってまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☐ やや満たしていない ☒ほぼ満たしている ☐満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる ☒町の関与は必要 ☐関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った ☒目標をほぼ達成した ☐目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり ☒当面は余地なし ☐かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☒当面検討の余地なし ☐かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	スマホ教室など定員を上回る講座が開設され、受講者のニーズに対応した取組が行われている。また、例年の 2 倍近くの受講者があり、意欲的な学びの場が開設されている。課題としてニーズの少ない講座については、見直しも必要である。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	青少年育成町民会議支援事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内の青少年	
	目 指 す べ き 姿	青少年健全育成町民会議の活動を支援することにより次代を担う青少年の健全な育成を図る。	
	具体的な事業内容	一日一汗運動への青少年の参加要請、夏祭り街頭指導、講演会、青少年発表支援、新成人への心の健康啓発	
最 終 予 算 額	2 5 0 千 円	決 算 額	1 3 6 , 1 3 4 円
事 業 の 成 果 と 課 題	一日一汗運動では地域活動への青少年の参加促進を図り、夏祭り街頭指導では青少年の非行防止に取り組みました。 また、保護司会及び郡公民館連絡協議会と共催し、命をテーマとした講演会を開催しました。新成人への心の健康啓発も行い、青少年の健全育成に努めました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	青少年参加の一日一汗運動や夏祭りでの街頭指導など、青少年の健全育成をめざした取組が計画的に実施されている。また、保護司会と郡公民館連絡協議会と共催した「命」をテーマとした講演会は、心の醸成、啓発につながっている。 今後もさらに、新成人者による社会体験の発表会や社会貢献活動など、若者の取組を広げてほしい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	演奏家派遣事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民・小学生	
	目 指 す べ き 姿	次世代の音楽文化を担う子どもたちが音楽の素晴らしさや楽しさを体感し、豊かな心を育むとともに、住民の心を豊かにし、魅力的なまちづくりを実現する。	
	具体的な事業内容	県立劇場と共催で各小学校に演奏家を派遣し、出前講座を行う。限られた空間で生の音に触れ演奏家との対話を通じて音楽を楽しむことを目的とするもの。 各小学校での出前講座終了後は、派遣の演奏家による町民向けの演奏会を開催する。	
最 終 予 算 額	5 9 0 千 円	決 算 額	5 5 0 , 0 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	各小学校にて、生の演奏に加え、実際に楽器に触れるなどの体験や、児童の意見、感想を聞くなどのコミュニケーションを通じた出前講座を実施しました。 その後のアンケートにおいて、前よりも音楽が好きになった、音色がとてもきれいだった、また演奏を聴きたいと思った等、高評価をいただきました。 また、出前講座終了後は、11月に活性化センターにおいて派遣した演奏家による町民向けの演奏会を開き、約150名の参加があり生演奏に触れた来場者から好評を得ました。 【出前講座】 11月実施 ・内野小・・・トランペット ・田浦小、湯浦小・佐敷小、大野小・・・コントラバス		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	演奏家派遣事業による出前の生の演奏会は、子どもたちや町民に音楽のすばらしさを体得させる上からも大切な事業である。アンケートにも見られるとおり、音楽の演奏を通して心の醸成が図られている。今後も続けてほしい事業である。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	町民講座運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民	
	目 指 す べ き 姿	町民の教養の向上、生きがいや仲間づくりのため、町民自らが学習のテーマを持って学習活動に取り組む	
	具体的な事業内容	年間を通して趣味や健康づくり、教養等の講座を実施。 町民講座 31 講座、子ども講座 4 講座の開講	
最 終 予 算 額	5, 9 3 4 千円	決 算 額	5, 2 7 7, 0 6 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	1 人につき 3 講座まで受講でき、同じ講座の受講は最大 5 年間と制限を設けることによって、より多くの方に受講する機会を与えられるよう考慮していますが、受講生にアンケートを実施したところ、5 年という制限を延長してほしいという意見が多かったため、次年度は、同一講座の受講について通算 7 年まで受講が可能とすることとしています。 令和 6 年度は、町民講座 3 1 講座中 2 8 講座、子ども講座 3 講座を開講し、年間を通して実施することができました。 今後も、ニーズに沿った講座の開設など、魅力ある事業を実施してまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	町民の教養や生きがいづくりをめざして、受講者のニーズに対応した魅力的な講座が設けられている。 今後はさらに、町民に広く学んでほしいと思う講座の開設、例えば年々減少していく「地域の伝統的な行事」や「芦北の歴史講座」など教育委員会としての仕掛けもさらに必要である。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	成人式開催事業		
事 業 の 概 要	対 象	新成人（令和 6 年度は平成 16. 4. 2～平成 17. 4. 1 生）	
	目 指 す べ き 姿	成人式実行委員会を発足し、式典の一部を運営することによって、地域づくりの担い手としての自覚を持ち、成人を全員でお祝いし、活躍してもらう。	
	具体的な事業内容	成人の日前日に成人式の開催 令和 6 年度 対象者 120 人（うち出席者 106 人）	
最 終 予 算 額	6 0 6 千 円	決 算 額	4 3 8 , 1 4 3 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和 7 年 1 月 1 2 日に、芦北町民総合センター（しろやまスカイドーム）で開催しました。 1 0 月に新成人による成人式実行委員会を発足し、式典へ向けて準備を行いました。実行委員においては、自分たちの成人式という意識の元、積極的に取り組み、式典の一部運営を担いました。 昨年に引き続き、事前に受付カードを送付する等、混雑緩和のための対策を行い、混乱もなく、成人者及び保護者から喜びの声を多数いただきました。		
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	成人者で実行委員会を組織して、式典の準備に協力し、魅力的な成人式が毎年推進されている。保護者からも好評であるが、さらに、毎年の決まった内容から、1 つだけでも例年にない取組を考えてほしいと期待する。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	家庭教育支援事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内小・中学校児童生徒、保護者	
	目 指 す べ き 姿	家庭の教育力の向上を図るとともに、不登校や問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応により、児童生徒の健やかな成長に資する。	
	具体的な事業内容	支援員3名を配置 町内小・中学校を管轄し、各種相談に対応 小・中学校の要請に応じ、「親の学び」講座を開催 家庭教育情報誌の発行	
最 終 予 算 額	1, 1 3 8 千 円	決 算 額	6 1 7, 8 3 5 円
事 業 の 成 果 と 課 題	支援員を増員して各中学校区に配置し、保護者等からの様々な相談対応や、「親の学び」講座等を実施しました。 令和6年度実績 ・相談件数 22 件 ・「親の学び」講座開催 1 回 ・小学生への命の授業 1 回		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	相談体制の充実が図られ、22件の相談件数があり、不登校や問題行動などの早期発見、未然防止につながっている。また、「親の学び講座」や小学生への「命」の授業など家庭の教育力を高める取組が進められている。 今後はさらに、保護者による「子育て体験記」など、発表の場を設けることも意義があると思う。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進								
事 務 事 業 名	コミュニティセンター管理運営事業								
事 業 の 概 要	対 象	コミュニティセンターの施設設備							
	目 指 す べ き 姿	コミュニティセンター施設使用者が、安全で快適に利用できるよう施設を管理運営する。							
	具体的な事業内容	各種施設設備（電気保安業務、エレベーター保守等）点検や施設管理、警備や清掃等の業務委託、施設の維持管理							
最 終 予 算 額	20,560千円	決 算 額	19,815,086円						
事 業 の 成 果 と 課 題	来館者が安全・安心で快適に利用できるよう各種設備点検、清掃、警備等の業務委託を行い、施設の適切な維持・管理に努めました。 また、町内外から多くの方々に来館いただいております。令和6年8月には、入館者が30万人を突破しました。今後もあらゆる世代が集い、つながり、学習する地域間交流の拠点として魅力ある施設づくりに努めてまいります。 ○令和6年度の利用者数 <table border="0"> <tr> <td>・公民館・・・・・・・・13,035人</td> <td>・歴史資料展示室・・・・・・・・1,107人</td> </tr> <tr> <td>・図書館・・・・・・・・51,517人</td> <td>・子どもの広場・・・・・・・・40,413人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">利用者の合計 106,072人</td> </tr> </table>			・公民館・・・・・・・・13,035人	・歴史資料展示室・・・・・・・・1,107人	・図書館・・・・・・・・51,517人	・子どもの広場・・・・・・・・40,413人	利用者の合計 106,072人	
・公民館・・・・・・・・13,035人	・歴史資料展示室・・・・・・・・1,107人								
・図書館・・・・・・・・51,517人	・子どもの広場・・・・・・・・40,413人								
利用者の合計 106,072人									
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない						
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討						
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った						
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり						
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり						
	総 合 評 価	B							
学識経験者意見	コミュニティセンターが町の生涯学習の拠点として、利用者が30万人を超えるなど、素晴らしいことである。蔵書図書も充実してきていると思う。一方で、利用者の多くは同じ人に限られているように思われる。今後はさらに、町の広報誌以外にも、図書館だより等定期的に発行し、行ってみたいと思う啓発活動をお願いしたい。								
教育委員会評価	B								
担 当 課	スポーツ・文化振興課								

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯学習の推進		
事 務 事 業 名	子どもの広場管理運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	施設利用者	
	目 指 す べ き 姿	子どもの広場の利用者が、安全で安心して利用できるよう施設を管理運営する。	
	具体的な事業内容	施設内清掃、遊具の消毒。 各種イベント（季節の行事に合わせたワークショップや木工教室等）の開催。	
最 終 予 算 額	1 6 , 4 1 3 千円	決算額	1 5 , 7 3 4 , 2 8 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	施設内の清掃、遊具の消毒を行い、利用者の見守りを行うなど安全・安心に配慮して運営しました。 木のおもちゃを通した「木育」を図るため、キッズカフェなどの木の遊具を新たに購入し、豊かな心の醸成とコミュニケーション能力の育成に努めました。 また、幅広い方々に来館いただけるよう季節の行事に合わせたワークショップをはじめ、外部講師による木工教室やサンドアートづくり、クリスマスリース&しめ縄づくり、肥薩おれんじ鉄道とのコラボイベントなどを実施しました。		
教 育 委 員 会 事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	子どもの広場の施設の清掃、遊具の消毒など利用者の衛生と安全を配慮した対応が適切に図られている。また、季節に合わせたワークショップ、木工教室、サンドアートづくり、クリスマスリース、しめ縄作り、肥薩おれんじ鉄道とのコラボイベントなど魅力的な企画で楽しい活動が展開されている。今後もさらに、他団体と連携した企画を期待したい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	読書活動の推進		
事 務 事 業 名	図書館管理運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民	
	目 指 す べ き 姿	教養、調査、読書活動等に資する資料を提供し、知の情報拠点となる。また、子どもの頃から読書・本に親しみ、生涯にわたり学習する意欲を養い心豊かな人間性を育む。	
	具体的な事業内容	図書館システムの活用により、図書等を収集・整理・保存し、利便性の高い利用者サービスを提供すると共に、町立図書館の適切な施設管理をおこなう。また、館内展示やPOP コンテストの実施、学校図書室の環境整備支援等を通じ読書活動を推進する。	
最 終 予 算 額	30,596千円	決算額	30,164,464円
事 業 の 成 果 と 課 題	貸出利用の多いマンガや小説の充実、流行に合わせたテーマの本の特集展示、適切な蔵書管理により、読書意欲の創出を図り、心豊かな人間を育む知の情報拠点としての機能を果たしました。 利用者数、貸出冊数については、R2.12の新図書館開館以来、増加傾向にあります。 利用者数 (R2)10,764人(R3)30,245人(R4)33,173人(R5)42,724人(R6)51,517人 貸出冊数 (R2)12,937冊(R3)41,607冊(R4)45,003冊(R5)52,900冊(R6)64,619冊 また、県博物館ネットワークセンターや役場各課と連携した企画展示、ホームページ上での情報発信、POP コンテスト、ブックスタート事業、子どもの広場と連携した読み聞かせなどにより、町民が本に親しむ機会を創出しました。 さらに、小中学校図書室運営支援や、全校全クラスへの学級文庫の配本など学校との連携を図りました。		
教育委員会 事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	■満たしている □ほぼ満たしている □やや満たしていない □満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	■町が主体となるべき □町の関与は必要 □町の関与は縮小できる □関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	■目標を達成した □目標をほぼ達成した □目標をやや下回った □目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	□余地なし ■当面は余地なし □一部余地あり □かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	□検討の余地なし ■当面検討の余地なし □一部余地あり □かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	貸出利用の多い漫画や小説図書の整備が図られて、貸出数も年々高まっている。また、企画展、情報発信、POP コンテスト、読み聞かせなど魅力的な事業が展開されている。 今後もさらに、町民への広報活動をお願いしたい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	学校と地域社会の連携推進		
事 務 事 業 名	放課後子ども教室推進事業		
事 業 の 概 要	対 象	佐敷小学校 1 年～3 年生、湯浦小学校 1 年～6 年生	
	目 指 す べ き 姿	地域の方々の協力を得て放課後に子どもの安全で健やかな活動場所を確保し、総合的な放課後対策を実施する。	
	具体的な事業内容	地域ボランティアの協力をいただき湯浦小学校と佐敷小学校で週 2 回（火曜・木曜）、午後 3 時から午後 5 時 15 分まで勉強やスポーツ、レクリエーション、交流活動を行う。 主な活動内容：学習タイム、ニュースポーツ体験、県ボランティア派遣事業を活用した流木ストラップ作り体験や、読書活動等。	
最 終 予 算 額	1, 8 6 5 千円	決 算 額	1, 7 8 7, 3 8 4 円
事 業 の 成 果 と 課 題	県の体験活動ボランティア派遣や芦北町スポーツ推進委員などの活用で年間を通し充実した活動を実施することができ、児童も大変喜び満足している様子が見られました。 各校 1 名ずつ（計 2 名）コーディネーターを配置していますが、地域ボランティアからなるサポーターの確保につきましては、今後も課題であり、広報活動や他事業との連携を図ってまいります。 【申込者数】 【年間実施回数】 ・湯浦小 23 名 ・湯浦小 54 回 ・佐敷小 23 名 ・佐敷小 52 回		
教 育 委 員 会 事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見		佐敷小、湯浦小ともに、県の体験活動ボランティア派遣や芦北町スポーツ推進委員の活用で、ニュースポーツや学習、読書活動など楽しい企画で実施されている。課題としてサポーターの確保が難しいとされるが、無理のない範囲で続けてほしい。	
教育委員会評価		B	
担 当 課		スポーツ・文化振興課	

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	学校と地域社会の連携推進		
事 務 事 業 名	地域学校協働本部事業		
事 業 の 概 要	対 象	全小・中学校児童生徒	
	目 指 す べ き 姿	学校活動の中で学校が必要とするボランティアを派遣し、支援することで学校と地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもたちを育てる。	
	具体的な事業内容	全中学校区において、地域学校協働本部事業（学習支援、安全支援、環境整備支援等）を行う協働本部へ補助金を交付し、活動の推進を図る。	
最 終 予 算 額	1, 5 5 8 千 円	決 算 額	1, 2 4 1, 5 4 1 円
事 業 の 成 果 と 課 題	各中学校区に推進員を置き、校区推進員を中心に学校が求める活動へボランティアを派遣し、登下校の安全見守りや本の読み聞かせ、植木の剪定、校舎・運動場周辺の草刈りなどの支援を行いました。 本部会議を年2回開催し、委員から活動計画への助言、意見等をもらい活動に活かしています。 今後も、さらに事業を推進するため、地域のボランティア確保に向け、広報活動に努めてまいります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	各中学校区の校区推進員を中心に、登下校の見守り、読み聞かせ、樹木の剪定、草刈りなど意欲的な支援活動が実施されている。また、本部会議を行い、課題等が活動に生かされている。 今後もさらに、地域ボランティアの発掘に力を注いでほしい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	人権教育の推進		
事 務 事 業 名	人権教育推進事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民	
	目 指 す べ き 姿	人権が尊重され、差別のない社会をつくる。	
	具体的な事業内容	水俣芦北地区人権教育推進協議会への参画 水俣芦北地区人権教育研究大会参加 熊本県人権教育研究大会、部落解放研究集会、人権に関する各種研修会への参加	
最 終 予 算 額	3 6 9 千 円	決 算 額	2 7 5 , 8 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度は8月に芦北町で第22回水俣・芦北地区人権教育研究大会が開催され、本町から約125名が参加しました。 人権問題に対して幅広い人に関心を持ってもらい、理解を深めることが課題です。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	前年度に比べ40人以上増えた参加者数で、水俣病問題や部落差別問題、ハンセン病問題、いじめ問題などさまざまな人権課題について有意義な研修が実施されている。 今後もさらに、学んだ一人ひとりが、人権啓発をしていくという意識や自覚を持ってほしいと願う。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	公民館活動（地域活動）の充実		
事 務 事 業 名	中央公民館運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民、自治公民館	
	目 指 す べ き 姿	地域の活性化や安全・融和等それぞれの地域の特色を生かした創造性豊かな自治公民館活動の充実。	
	具体的な事業内容	公民館運営審議会の開催、公民館研究大会への参加を通して自治公民館活動への指導、助言、支援等。また、中央公民館の使用許可、減免申請の受付、物品の貸し出し業務。	
最 終 予 算 額	3 9 2 千 円	決 算 額	3 2 6 , 9 7 1 円
事 業 の 成 果 と 課 題	公民館運営審議会について、年2回（5月・3月）開催をしました。（社会教育委員会と合同） 県公民館大会・県社会教育研究大会に、職員及び自治公民館連絡協議会役員で参加しました。 中央公民館研修室等の貸出については、適宜清掃を実施し、快適な利用環境の提供に努めました。 【研修室利用者数】 R6年度 13,035人（参考：R5年度 10,894人）		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	前年度に比べて研修室利用者が2000人以上増えるなど、積極的な利用が見られる。また、公民館運営協議会、公民館九州大会、熊本大会など、館長や事務局職員の研修の充実が図られている。今後もさらなる中央公民館の利用増を期待したい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	公民館活動（地域活動）の充実		
事 務 事 業 名	地区公民館施設整備支援事業		
事 業 の 概 要	対 象	自治公民館施設	
	目 指 す べ き 姿	自治公民館利用者の利便性を図り、自治公民館の使用を増進し、自治活動の向上を目指す。	
	具体的な事業内容	地区公民館施設整備支援事業によって地区公民館の建設等を行う地域に対して補助金を交付し、自治公民館利用者の利便性や周辺環境を改善する。 補助事業の種類として、町単独で行う地区公民館建設補助金、宝くじの社会貢献を目的としたコミュニティ助成事業補助金がある。	
最 終 予 算 額	1, 2 1 4 千円	決 算 額	1, 2 1 3, 0 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	本事業の実施により、自治活動の場所や環境が改善され、自治公民館活動の向上が見込まれます。 地区公民館建設補助事業として、令和6年度は、簸瀨公民館ほか4か所の公民館の改修、修繕等に係る経費に対し、補助金を交付しました。 自治公民館は、地区活動の拠点であると同時に、災害が発生した場合の一時避難所となる機会も多いため、地区の要望に寄り添いながら事業を継続していくことが重要です。		
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見		簸瀨公民館他4か所の改修、修繕の補助金が交付され、自治公民館の施設管理の充実が図られている。 今後も、被災した箇所や老朽化した箇所から順次優先的に対応してほしい。	
教育委員会評価		B	
担 当 課		スポーツ・文化振興課	

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	歴史・伝統文化の尊重		
事 務 事 業 名	演能会開催事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民及び近隣市町村住民	
	目 指 す べ き 姿	日本固有の伝統芸能である薪能等を鑑賞できる機会を提供し、文化財の愛護及び豊かな感性を育み伝統文化の大切さを感じてもらう。	
	具体的な事業内容	芦北町演能会の実施 ・日本の伝統音楽演奏、狂言と能の上演実施 開催日時 ・令和6年10月3日 入場者数 ・294人	
最 終 予 算 額	2, 8 1 2 千 円	決 算 額	2, 6 1 8, 9 6 6 円
事 業 の 成 果 と 課 題	しろやマスカイドームを会場とし、開会行事では熊本県神社庁雅楽部による雅楽演奏や火入れ式があり、次いで狂言師野村万禄（萬狂言）による狂言「棒縛」、喜多流喜秀会による能楽「天鼓」が上演されました。 町民が我が国の古典芸能を直に観覧し、伝統文化や文化財に対して関心を持つ機会となりました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない ☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
	学識経験者	近年は、しろやマスカイドームの開催となったが、古典芸能である雅楽や狂言、能楽など、毎年すばらしい演能会が実施されている。参加者は比較的限られているが、今後もさらに町民へのPRをお願いしたい。	
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	歴史・伝統文化の尊重		
事 務 事 業 名	佐敷城跡調査事業		
事 業 の 概 要	対 象	佐敷城跡、佐敷城跡出土物	
	目 指 す べ き 姿	佐敷城跡についての理解と関心を町民に深めてもらうとともに、後世に伝える。	
	具体的な事業内容	国史跡佐敷城跡の出土遺物の調査研究及び展示。 被災した町内文化財の洗浄、修復等の整理作業 ・ 出土遺物整理（通年） ・ 歴史資料展示（通年）	
最 終 予 算 額	8, 1 9 2 千 円	決 算 額	8, 0 4 0, 4 7 3 円
事 業 の 成 果 と 課 題	国史跡佐敷城跡は、町を代表する文化財であり、史跡佐敷城跡保存管理計画に基づき適正に管理を進めています。 なお、佐敷城跡からの出土遺物は整理作業を行い、特に重要な遺物については歴史資料展示室で展示を行っています。 また、令和2年7月豪雨災害により被災した古文書等の文献資料について、目録作りのほかクリーニングや脱臭作業などの整理作業を継続して行いました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
	学識経験者意見	毎年、史跡佐敷城跡保存管理計画に基づいて、出土遺物の整理や、重要な遺物の資料室展示など適切に管理されている。 また、被災した古文書等のクリーニング脱臭作業など丁寧な作業が実施されている。	
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	歴史・伝統文化の尊重		
事 務 事 業 名	文化財保護審議会運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	芦北町文化財保護審議会委員、町内に残る文化財	
	目 指 す べ き 姿	町内に残る歴史遺産の保護継承を図り、町民の文化財保護意識の高揚を図る。	
	具体的な事業内容	文化財保護審議会における、町内文化財の保護及び活用に関する指導助言、町指定文化財に関わる審議を行う。 ・文化財保護審議会開催（２回） ・熊本県文化財保護大会（１回） ・文化財保護先進地視察研修（日帰り）	
最 終 予 算 額	1 5 8 千 円	決 算 額	1 0 3 , 0 8 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和６年度は審議会を４回開催（県文化財保護大会出席含む）し、佐敷城跡の樹木伐採や文化財標柱設置など、文化財の管理状況について確認を行いました。 なお、文化財保護先進地視察研修では、文化庁が作成を推進している文化財保存活用地域計画策定に向けて、既に計画策定を行った水俣市で担当者から計画策定における文化財保護審議会の役割などについて学んだほか、鹿児島県出水市の伝統的建築物群保存地区を視察し、伝統的な建築物の保存活用について知見を深めました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
	学識経験者意見	年３回の文化財保護審議会と、県文化財保護大会が開催され、また、水俣市での「文化財保存活用地域計画策定」の研修及び出水市での伝統的建築物の見学など、文化財保護審議会委員の見識を高める研修が実施されている。 今後は、本町でも本格的に「保存活用地域計画策定」を完成させていかなければならない。	
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	歴史・伝統文化の尊重		
事 務 事 業 名	文化財調査事業		
事 業 の 概 要	対 象	歴史的建造物、土木遺産、古文書、伝統芸能、風習等	
	目 指 す べ き 姿	地域の歴史を解明し、町内外の方に地域の歴史に対する理解を深め、町民の文化財保護意識の高揚を図る。	
	具体的な事業内容	周知の埋蔵文化財包蔵地内における開発行為に対し、事前調査及び調整を行う。 また、町内に残る歴史的建造物や古文書、遺跡、伝統芸能、風習など貴重な各種文化遺産や地名等について調査を行う。	
最 終 予 算 額	1 6 5 千 円	決 算 額	1 7 , 2 6 4 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度は町内における開発行為について、埋蔵文化財の有無など65件の事前確認を行い、埋蔵文化財のき損や滅失等を回避することが出来ました。 また、町内文化財及び地域の歴史、地名等に関する町内外からの問い合わせに対し随時対応したほか、町内の未指定文化財への調査については八代市立博物館や熊本県文化課の協力を仰ぎながら、文化財的な価値の評価を行いました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
	学識経験者意見	令和6年度の町内の開発行為について埋蔵文化財の有無など65件が事前に確認され、き損や滅失が回避された。また、町内の文化財、地域の歴史、地名等に関する問い合わせも、丁寧な対応がとられている。今後も専門家の助言を受けて調査を行ってほしい。	
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	歴史・伝統文化の尊重		
事 務 事 業 名	文化財維持管理事業		
事 業 の 概 要	対 象	歴史的建造物、土木遺産、古文書、伝統芸能、風習等	
	目 指 す べ き 姿	町内に残る文化財の保存継承を図る。	
	具体的な事業内容	町内文化財の維持管理及び周知活動等に係る事業を行う。 ・指定文化財の維持管理（草刈・清掃・点検・修繕等） ・指定文化財の管理への謝金・郷土芸能団体への報奨金	
最 終 予 算 額	6, 7 1 3 千円	決 算 額	5, 4 6 1, 7 3 7 円
事 業 の 成 果 と 課 題	国史跡佐敷城跡をはじめ指定文化財の維持管理を定期的に行っており、佐敷城跡においては昨年に引き続き史跡指定範囲地内の間伐のほか、老朽化した文化財標柱については取換えを行うなど、文化財の適正な保存管理と利用者の利便性向上を図りました。 なお、指定文化財管理者及び郷土芸能保存団体へ文化財の維持管理と郷土芸能の保存継承に対する謝金の支払いを行ったほか、町広報誌へ『新 芦北町誌』執筆者による町誌の見どころ紹介を連載するなど、郷土の歴史・文化と地域住民の結びつき強化を図りました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	指定文化財の維持管理のために、範囲地内の間伐、老朽化した標柱の取り換えなど定期的な作業が実施されている。 また、町広報誌で、新芦北町誌執筆者による郷土の歴史や文化を紹介するなど、すばらしい町民への啓発が実施されている。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	歴史・伝統文化の尊重		
事 務 事 業 名	佐敷東の城跡調査事業		
事 業 の 概 要	対 象	佐敷東の城跡及びその周辺の関連遺跡	
	目 指 す べ き 姿	県内でも有数の中世山城とされる佐敷東の城跡（町指定史跡）の史跡としての価値を高め、町民の理解を深めるとともに、文化財に対する町民の意識の高揚を図る。	
	具体的な事業内容	佐敷東の城跡（町指定史跡）について将来的な国史跡指定に向けた総合的な調査を行う。 また、調査に対する指導及び検討を行うため学識経験者による調査検討委員会を設置し、調査方法や事業計画に対する意見を取りまとめる。	
最 終 予 算 額	1, 4 9 2 千 円	決 算 額	1, 1 3 2, 0 6 2 円
事 業 の 成 果 と 課 題	文化庁調査官や熊本県文化課職員をオブザーバーに迎え、歴史学や考古学などの専門家で構成する佐敷東の城跡調査検討委員会を2回開催し調査計画を精査したほか、歴史地理学の専門家1名を新たに検討委員に加えるなど調査体制の拡充を図りました。 また、文化庁において来年度の国庫補助を活用した発掘調査実施に向けて、調査計画の内容を検討しました。このほか熊本大学や天草市職員など県内の研究機関、自治体と協力して、古文書資料の解析や出土物の調査などを行いました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	歴史学や考古学、さらに歴史地理学の専門家を加え、調査の充実が図られている。特に、文化庁の国庫補助を活用し発掘調査の計画内容の検討、古文書資料や出土物の調査など専門家による調査が進められている。今後もさらに、中世の山城とされる佐敷東の城跡の価値を町民にも啓発してほしい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	文化芸術活動の推進		
事 務 事 業 名	文化振興事業		
事 業 の 概 要	対 象	町内在住者及び町内の団体、又は文化活動の拠点が芦北町である者	
	目 指 す べ き 姿	町内外の芸術団体の交流を促進するとともに、町民の文化、芸術活動への理解を深め、文化、芸術活動を行う者の意欲の向上を図る。	
	具体的な事業内容	九州大会以上の大会に出場する者に対し、経費の補助及び九州大会以上の大会で優秀な成績を残した者を表彰する。 ・ 芦北町文化振興事業補助金交付 ・ 芦北町文化振興奨励賞表彰	
最 終 予 算 額	1, 6 6 2 千 円	決 算 額	1, 4 7 4, 5 5 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度は7件（全国大会6件、九州大会1件）の大会出場者に補助金を交付し、周知の看板（5枚）を設置しました。 また、文化、芸術部門での優秀成績者（15名・2団体）へ奨励賞を贈りました。 □補助金：全国大会6件（19名）、九州大会1件（1名） □奨励金：金賞（全国大会）3名1団体、銀賞（九州大会）5名、銅賞（県大会）7名、特別賞1団体		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	A	☒ 余地なし ☐ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	全国大会7件と前年度よりも増えて、大会出場者への補助金交付、周知の看板の作成、優秀者への奨励金など、出場者の意欲を高める支援が実施されている。 今後もさらに、看板、広報、補助金、奨励金など適切な支援をお願いしたい。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	文化芸術活動の推進		
事 務 事 業 名	文化祭開催事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民	
	目 指 す べ き 姿	町の伝統文化や新しい文化を学んでもらい、心豊かな人間性を育てる。	
	具体的な事業内容	伝統芸能や町民の文化活動発表の機会を設けるとともに講演会を開催する。 ・町文化協会団体発表会 ・町民の各種作品展示 ・文化講演会	
最 終 予 算 額	1, 6 5 8 千円	決 算 額	9 1 0, 6 8 3 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度の芦北町文化祭開催について、文化協会総会及び理事会で協会員から意見を聴取し、10月26～27日に文化協会発表会、及び27日に文化講演会を開催しました。 ステージ発表では2日間で21団体（304名）、子ども講座2団体（24名）、作品展示では189名及び9福祉施設の発表のほか、町内学校関係作品として504点の展示がありました。 文化講演会では、評論家の石平さんを講師に、「日中関係の歴史と現状及び今後の課題」と題して講演があり、約400名の方が聴講されました。		
教育委員会事務局の評価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない ☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者	令和6年度の文化祭では、文化協会によるステージ発表、作品展示、学校関係作品の展示があり、文化講演会では石平氏の講演など有意義な文化祭が実施された。次年度も聞きたいと思える講師の選定をお願いしたい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	星野富弘美術館の充実		
事 務 事 業 名	星野富弘美術館運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	施設利用者	
	目 指 す べ き 姿	富弘作品による「命の尊さ・命の輝き」を通じて、人々に心の豊かさと生活への潤いをもたらす。	
	具体的な事業内容	・富弘作品の展示・収集・保存 ・富弘作品を通じた教育普及活動 ・富弘美術館との連携 ・美術館の広報	
最 終 予 算 額	1 2 , 8 6 1 千円	決 算 額	1 1 , 9 7 9 , 9 4 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度は、展覧会を5回開催しました。展覧会については、特別展に併せ季節の常設展も行いました。(4月、6月、9月、12月、3月) 教育普及活動については、第18回詩画公募展を実施したところ、1,563点の作品が集まりました。また、湯浦小学校ほか3団体において、星野富弘の生き方や詩画を紹介する出前講座を実施し、芸術文化及び「心の教育」に関する意識の高揚を図ることができました。 なお、収蔵作品の充実を図るため、新たに星野富弘ジグレー版画を3点購入し合計194点となりました。 入館者数は、星野富弘氏の御逝去(令和6年4月28日・享年78歳)に伴い、富弘さんを偲んで来館された方々が増加したことで併せて、新型コロナ等の影響も減少したため、前年度より22.7%増の5,732人となりました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	常設展や特別展など、季節に合わせた魅力的な展覧会が開催されている。また、詩画公募展や出前講座など星野富弘さんに学ぶ生き方についてすばらしい取組が実施されている。 特に、星野さんが逝去されたことで、1000人以上来館者が増えて、今後も益々町民以外にも見学してほしい施設である。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進		
事 務 事 業 名	スポーツ振興支援事業		
事 業 の 概 要	対 象	町民	
	目 指 す べ き 姿	助成を行うことで、組織の強化や大会に出場しやすい環境を整え、競技スポーツの活性化を図る。	
	具体的な事業内容	競技力向上と育成強化を目的とした活動を行う団体等に対する補助。九州大会・全国大会に出場する監督及び選手に対する経費の補助。優秀な個人・団体・指導者の顕彰を目的とした「芦北町スポーツ賞」の交付。町外からスポーツ留学をしてきた中学生及び受け入れを行った団体等に対し、下宿費等の補助金を交付する。	
最 終 予 算 額	8, 3 1 5 千円	決 算 額	8, 3 4 5, 5 9 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	社会体育クラブに育成強化費等を補助し、九州大会以上の大会に出場した選手・監督に大会参加補助を行うとともに、全国大会出場者は看板を設置し町民へ周知しました。また、一年間で最も活躍した選手・指導者に、スポーツ賞及び奨励金を交付し、町外からスポーツ留学をしてきた中学生及び受け入れを行った団体等に対し、下宿費等の補助金を交付しました。 社会体育クラブ育成補助金（１１団体） 大会出場補助金 ２７７人（九州大会１９０人・全国大会８７人） スポーツ賞奨励金１０１人（金賞２９人・銀賞１６人・銅賞５３人・特別賞３人） 中学生スポーツ留学 １人・１団体		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A	
学識経験者意見	九州大会や全国大会出場者への参加補助、全国大会出場者の看板の設置、活躍選手、指導者へのスポーツ賞、奨励金の交付など適切な支援体制が図られている。また、スポーツ留学や受け入れ団体等に対する下宿費の補助など、優秀な選手を育てる環境整備が進められている。		
教育委員会評価	A		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進			
事 務 事 業 名	温泉プール管理運営事業			
事 業 の 概 要	対 象	施設利用者		
	目 指 す べ き 姿	利用者の健康増進及び親睦と、体育・スポーツの振興を図る。		
	具体的な事業内容	利用者に安全かつ快適な利用環境を提供する。 ・施設の管理運営 ・各種教室の開催		
最 終 予 算 額	40,959千円	決 算 額	33,338,018円	
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度は、アクア教室、小学生水泳教室等を開催し、町民の健康づくりやスポーツ人口の増加に寄与することができました。 また、施設の老朽化により、暖房機器の故障に伴い緊急対応でジェットファーンレスを新たに購入しました。今後も利用者が安全かつ快適に利用してもらうために、施設環境を整備して行く必要があります。			
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない	☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる	☐ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った	☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり	☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり	☒ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B		
学識経験者意見	アクア教室、小学生の水泳教室の開催、町民の健康づくりと、町民のスポーツ人口の拡大に向けた地道な活動が実施されている。施設の老朽化に伴い、修理箇所も多くなっているが、今後も安全第一に施設の管理を行ってほしい。			
教育委員会評価	B			
担 当 課	スポーツ・文化振興課			

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進		
事 務 事 業 名	総合型地域スポーツクラブ活動支援事業		
事 業 の 概 要	対 象	クラブ利用者	
	目 指 す べ き 姿	町民が、年間を通して多種多様なスポーツを行い、体力向上・健康づくり・仲間づくりの場として活用できる組織、団体の確立を目指す。	
	具体的な事業内容	芦北町総合型地域スポーツクラブ（J K Aトレジャークラブ）のスポーツ・レクリエーション活動等に対し補助金を交付する。	
最 終 予 算 額	2, 5 4 0 千円	決 算 額	2, 5 4 0, 0 0 0 円
事 業 の 成 果 と 課 題	スポーツ学習教室（5教室）は、子どもから高齢者までいつでも・どこでも・だれでも楽しく参加できる環境が整えられ、町民の体力向上・健康づくり・仲間づくりに寄与することができました。また、育成教室（9教室）では、年々成果が表れ小中学生の競技力向上が図られています。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	B	☐ 満たしている ☒ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	スポーツ学習教室では、子どもから高齢者まで楽しく学ぶ学習環境が整備され、育成教室では、小中学生の競技力の向上をめざした取組の成果が見られる。 これからも、生涯スポーツの理念を浸透させてほしい。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進		
事 務 事 業 名	体育イベント開催事業		
事 業 の 概 要	対 象	イベント参加者	
	目 指 す べ き 姿	地域のコミュニケーションづくりや、日常的にスポーツに親しむきっかけを提供するとともに、競技力の向上を目指す。	
	具体的な事業内容	体育イベント開催事業については、4 競技の交流イベント（軟式野球大会、バレーボール大会、サッカー大会、卓球大会）を実施し町内外の参加者と交流を深める。 ・ニュースポーツフェスタ開催	
最 終 予 算 額	6 0 3 千 円	決 算 額	4 5 2 , 8 2 2 円
事 業 の 成 果 と 課 題	交流イベントの軟式野球大会、バレーボール大会、卓球大会、サッカー大会を種目協会主催で開催することができました。熊日三太郎駅伝競走大会については第 75 回目を開催し、県内で最も伝統のある大会として、多くの人たちが沿道から声援を送りました。 今後も引き続き、町民がイベントに参加できる機会の創出を図ります。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☒ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
	学識経験者意見	交流イベントとしての軟式野球大会、バレーボール大会、卓球大会、サッカー大会と選手の力を高める競技大会が開催されている。また、熊日三太郎駅伝競走大会は、伝統的な競技大会として町民にも広く親しまれており、選手、応援者、関係役員等一体となったイベントが開催されている。	
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進			
事 務 事 業 名	芦北町スポーツ協会支援事業			
事 業 の 概 要	対 象	町民		
	目 指 す べ き 姿	町民のスポーツ人口の拡大と競技力向上を図る。		
	具体的な事業内容	スポーツ協会活動（各種町民スポーツ大会開催・郡民体育祭選手派遣・熊日三太郎駅伝競走大会選手派遣・県民体育祭選手派遣等）に対し補助金を交付する。		
最 終 予 算 額	4, 7 7 0 千円	決 算 額	4, 7 7 0, 0 0 0 円	
事 業 の 成 果 と 課 題	各種町民スポーツ大会は、11種目（グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、卓球、クレ射撃、ソフトボール、バドミントン、水泳、ゴルフ、軟式野球、ビーチボールバレー、バレーボール）を開催することができました。 熊本県民体育祭では、空手道が優勝、相撲が準優勝、女子バドミントンが3位入賞を果たしました。 第54回熊日郡市対抗駅伝では、今大会より男女混合チームへ選手を派遣し、総合15位と、チーム力を発揮するよい機会となりました。 なお、各種目競技の競技力低下を避けるため、地域スポーツ協会や種目協会に対しても補助を行い選手の育成に務めました。			
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない	☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる	☒ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った	☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	(B) A	☒ 余地なし ☐ 一部余地あり	☐ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	(B) A	☒ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり	☐ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A (B)		
学識経験者意見	各種のスポーツ大会は、11種目が開催され、競技力の向上と人的交流が図られている。また、県民体育祭では、空手道優勝、相撲準優勝、女子バドミントン3位入賞と、すばらしい成績を修めている。さらに、郡市駅伝競走の男女混合チームで15位となるなど躍進が見られ、次年度からのさらなる期待が持たれる。			
教育委員会評価	A (B)			
担 当 課	スポーツ・文化振興課			

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進		
事 務 事 業 名	スポーツ推進委員協議会運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	スポーツ推進委員	
	目 指 す べ き 姿	本町における、地域スポーツの振興を支える人材の資質向上と、スポーツ施策の活性化を図る。	
	具体的な事業内容	スポーツの指導者として、実技指導や各種スポーツ大会の実施、スポーツに関する指導・助言・普及を行う。 ・年6回の定例会の開催・広報紙1回の発行 ・各種研修会への参加 ・主催事業の開催及び町事業への積極的参加・協力	
最 終 予 算 額	1, 2 3 0 千円	決 算 額	8 7 5, 2 9 4 円
事 業 の 成 果 と 課 題	スポーツ推進委員会を年6回開催するとともに、熊本県や九州地区のスポーツ推進委員研修会に参加し、資質の向上とスポーツ指導体制の強化を図ることができました。 また、ダンボルック大会やスポーツフェスタ（新体力テスト）を開催し、スポーツの推進に努めることができました。 広報活動では、スポーツ推進委員の活動をより身近に知ってもらうため、ホームページやSNSによる情報発信を行うとともに「広報あしきた」にも掲載し、広く周知を図りました。		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	A	☒ 満たしている ☐ ほぼ満たしている ☐ やや満たしていない ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	B	☐ 町が主体となるべき ☒ 町の関与は必要 ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	B	☐ 目標を達成した ☒ 目標をほぼ達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☒ 当面は余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	(B) A	☒ 検討の余地なし ☐ 当面検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	B	
学識経験者意見	定期的なスポーツ推進委員会会議や、県、九州地区のスポーツ推進委員研修会へ参加するなどスポーツ指導者の研修が深められている。 また、イベントとしてのスポーツフェスタ、ダンボルック大会など、世代を越えた活動が展開されている。 さらに、広報活動の一環として、生涯スポーツの浸透をめざした情報発信も適切に行われている。		
教育委員会評価	B		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進		
事 務 事 業 名	体育施設管理運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	施設利用者・町民総合センター及び各体育施設	
	目 指 す べ き 姿	利用者の健康増進及び親睦と、体育・スポーツの振興を図る。	
	具体的な事業内容	町民総合センター及び各体育施設を安全、安心して利用できるよう管理、運営を行う。 ・湯浦運動公園照明設備改修工事	
最 終 予 算 額	1 3 9 , 7 0 8 千円	決 算 額	1 1 9 , 0 9 3 , 9 4 8 円
事 業 の 成 果 と 課 題	町民総合センターを中心に、各体育施設と夜間学校体育施設の適切な維持管理運営を行いました。 湯浦運動公園照明設備改修工事による照明設備を、水銀灯から LED 灯に更新することにより利用環境の向上に努めることができました。 各体育施設は老朽化により、今後も施設や設備等、多額の予算を伴う修繕が必要となることから、計画的に改修を行い、利用者の安全を第一に管理運営を行っていく必要があります。 町民総合センター利用者数：51,881人（テニスコート、射撃場、アーチェリー場、地域間交流スポーツグラウンド含む） その他各体育施設利用者数：56,549人		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	(B) A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない ☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	(B) A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A (B)	
	学識経験者意見	町民総合センターの利用者数は、前年度に比べ1000人以上の増加が見られる。生涯スポーツの理念である「健康づくり、体力づくり、生きがいづくり」の目的が広がりを見せている。 また、施設の管理も適切に行われている。今後は、老朽化している施設について、順次計画的に改修を進めてほしい。	
教育委員会評価	A (B)		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

点検及び評価結果報告書

具 現 化 方 針	生涯スポーツの推進		
事 務 事 業 名	地域資源活用総合交流促進施設管理運営事業		
事 業 の 概 要	対 象	施設利用者	
	目 指 す べ き 姿	施設の利用を促進することで、文化・スポーツ等による交流人口の増加を図る。	
	具体的な事業内容	施設を安全かつ快適に利用できるよう管理、運営を行う。	
最 終 予 算 額	1 3 , 9 7 6 千 円	決 算 額	4 , 5 7 1 , 5 1 6 円
事 業 の 成 果 と 課 題	令和6年度は利用者及び避難者の利便性向上のため、研修室畳張替修繕及び自動火災報知設備取替修繕しました。 今後は、周辺の体育施設との連携並びに職場や学校行事による利用促進など、より多様な利用形態を目指し、更なる関係人口の増加を図っていく必要があります。 また、特定避難所として、利用者の利便性の向上に努めます。 交流センター利用者数：1 1 , 3 2 6 人		
教 育 委 員 会 事 務 局 の 評 価	事 業 の ニ ー ズ	(B) A	☒ 満たしている ☐ やや満たしていない ☐ ほぼ満たしている ☐ 満たしていない
	町 関 与 の 範 囲	A	☒ 町が主体となるべき ☐ 町の関与は縮小できる ☐ 町の関与は必要 ☐ 関与のあり方を再検討
	達 成 度	(B) A	☒ 目標を達成した ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標をほぼ達成した ☐ 目標を大きく下回った
	効 率 性 (事業の効率性を高められるか)	B	☐ 余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面は余地なし ☐ かなり余地あり
	公 平 性 (事業効果の配分や受益者負担は適切か)	B	☐ 検討の余地なし ☐ 一部余地あり ☒ 当面検討の余地なし ☐ かなり検討の余地あり
	総 合 評 価	A (B)	
学識経験者意見	畳の張替修繕や火災報知器設備の取り換えと快適性と安全対策が適切に講じられている。利用者は前年度に比べ、1 0 0 0 人近く減少しているが、今後も職場や学校等での利用を期待したい。		
教育委員会評価	A (B)		
担 当 課	スポーツ・文化振興課		

